

2026 年 9 月 10 日

各位

会 社 名 シンバイオ製薬株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長兼 CEO 吉田 文紀  
(コード番号：4582)  
問 合 せ 先 IR 室 (TEL. 03-5472-1125)

**第 85 回日本癌学会学術総会において、悪性脳腫瘍（膠芽腫）  
を対象とした IV BCV 試験結果の採択のお知らせ**

**～PDX モデルにおいて脳内腫瘍への集積と生存期間の有意な延長を実証～**

シンバイオ製薬株式会社（本社：東京都港区、以下「シンバイオ製薬」）は、第 85 回日本癌学会学術総会（2026 年 9 月 24 日～ 26 日、京都府京都市）において、ブリンシドホビル（brincidofovir, 以下「IV BCV」）の悪性脳腫瘍（膠芽腫：GBM）を対象とした有効性を示す前臨床試験結果がポスター発表として採択されたことをお知らせします。

シンバイオ製薬は IV BCV のがん領域の展開にあたり、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) と共同研究を進めてまいりました。今回の発表では、IV BCV が脳内腫瘍に集積することを確認し、さらに単剤療法および標準療法との併用療法により有意に生存期間を延長することを実証した成果を報告します。これは、現在の標準療法に不応の患者も多く、IV BCV が新たな治療の可能性を示す重要な知見です。今後、臨床試験開始に向けて準備を進めてまいります。

**採択演題の概要**

- **演題タイトル：**膠芽腫に対するブリンシドホビルの *in vivo* における前臨床有効性の解明
- **発表者：** 長谷 祥治
- **学会名：** 第 85 回日本癌学会学術総会
- **日時：** 2026 年 9 月 24 日 16：40 - 17：25
- **会場：** 国立京都国際会館（京都府、京都市）
- **演題番号：** P-1233

発表者のシンバイオ製薬トランスレーショナルリサーチ部 長谷 祥治のコメントです。

「実際の患者の腫瘍状況を高度に反映した『PDX（患者由来がん細胞）脳内移植モデル』を用いて IV BCV の有効性が確認できたことは重要な成果です。本成果が臨床応用に向けて大きな弾みとなることを確信しています。」

なお、本件が 2026 年 12 月期の連結業績に与える影響はありません。

以上

## 注記

### （注1）悪性脳腫瘍（膠芽腫、グリオブラストーマ）について

脳の神経膠細胞から発生する脳腫瘍の神経膠腫（グリオーマ）は、進行が非常に速く予後が悪く致死率が高く、現在、有効な治療方法がありません。最も悪性度が高いグレード4の膠芽腫では、診断後の中央生存期間は2か月から18か月と短く、5年生存率は5%以下です。なお、5年生存率が50%以下のがんは「難治性がん」と分類されます。そのひとつである膠芽腫は、国内で年間約2,300人、欧米では約28,000人の患者が発症すると推定されています。現在の標準療法では、放射線照射との併用でテモゾロミド（商品名：テモダール<sup>®</sup>）が使用されていますが、半数ちかくの患者は標準療法であるテモゾロミドに対して耐性を示します。この耐性を克服する治療法はまだ確立されていないため新しい薬剤の開発が強く望まれています。

### シンバイオ製薬について：3本の治療領域を柱としたBCVの事業戦略

シンバイオ製薬は2019年9月、プリンシドホビル（BCV）のグローバルライセンスを取得して以来、3つの治療領域において、そのポテンシャルを掘り起こすことを目的として各治療領域の世界最高峰の研究機関と共同研究を進めてきました。現在、対象疾患領域として、第1の柱である移植後ウイルス感染症領域をはじめ、第2の柱としてがん領域、第3の柱として脳神経変性疾患領域の3治療領域を中心に経営資源を集中して開発を進め、グローバルに事業展開をすることによりBCVの事業価値の最大化を目指しています。